

関西学院大学

建築学部

学部読本2021

2020年7月31日 第2版

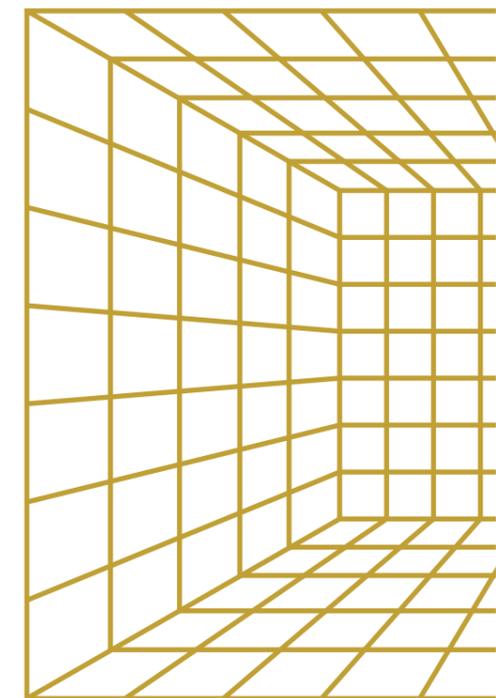
2021年4月開設

建築学部

建築学科

SCHOOL
OF
ARCHITECTURE

2021



Department of Architecture



お問い合わせ先

〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
関西学院大学神戸三田キャンパス 建築学部設置準備室
TEL:079-565-7601



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY



Be a Borderless Innovator

次代を担うみなさんが
世界の課題解決に新しい価値観で挑む
Borderless Innovatorになる

2021

現代社会には、環境問題やエネルギー問題、健康・福祉、貧困や格差・差別などをはじめとする多くの課題が山積しています。こうした状況を受け、国連はSDGs(持続可能な開発目標)を掲げ、先進国・開発途上国を問わずこれらの課題を解決するための取り組みを進めています。

関西学院大学はスクールモットーである“Mastery for Service”(奉仕のための練達)のもと、長年にわたり「世界市民」として「世界の課題を解決し、社会をより良くする人材」を育てる教育・研究を進めてきました。まさに今の時代の要請を「先取り」してきた存在と言えるでしょう。

そして2021年、関西学院大学はこれまでの取り組みをより進化させるために、神戸三田キャンパスを再編・拡充します。学生・教職員が、国境や文系・理系、学問分野、大学と社会など、さまざまな枠を超えた教育を推進し、ますます複雑化する未来に向けて「境界を越える革新者(Borderless Innovator)」の育成を図ります。

新しい時代を創る「Borderless Innovator」になるのは、今これを読んでいるみなさんです。関西学院大学は、「より良い社会の実現」をめざすみなさんの期待に応える教育・研究を推進していきます。

新しい時代は来るのではなく、
創るのだ

関学建築が デザインする 私たちの暮らしと 社会の未来、 その行方とは？

新たに開設する
関西学院大学建築学部(関学建築)。
国内における少子高齢化と人口減少、
地球規模で進む環境問題の深刻化、
情報技術の急速な進化など、
社会構造の大きな変化は、
私たちが暮らす家や街、そして都市を
どのように変えていくのだろうか。
グローバルな視野で建築と都市の未来を創造し、
「建てること」にとどまらない新たな建築学から
現代社会における課題の解決に向けて
教育・研究を遂行する。

CONCEPT

1 マネジメントの視点を 建築にインストールする

20世紀型のスクラップ&ビルドをよしとする社会から、持続可能性を目指すストック&リユースの社会へ。そのためには、魅力的な建築空間や都市空間をいかに運営・管理するかという「マネジメント」の視点が必要です。いまある資源をどのように活用し、建築物を長期にわたって利用できるか。関学建築はこの新しい建築の考え方を柔軟に取り入れ、次世代の建築教育のスタンダードを目指します。

2 みんなが主役の ボトムアップを重視する

専門家が一方的に決めるようなトップダウン型から、子どもやお年寄りを含む、さまざまなプレイヤーが参加して一緒に考えるボトムアップ型のまちづくりが、いま求められています。関学建築では人が暮らす場としての建築デザインと、一人ひとりが主役になれる都市デザインを重視し、教室の中だけではなく、社会というフィールドで多様なバックグラウンドの人とともに実践的な学びを生み出します。

3 人、建築、都市を コネクトする

都市は建築物の集合体です。だからこそ両者を連続的に捉え、一体的にデザインするための方法が重要です。そして、地域社会や自然環境にも配慮し、お互いに良好な関係を維持するには、スケールを横断した思考が求められます。関学建築は、人と建築、そして都市がシームレスにつながりつつある現在の状況に向き合い、幅広い状況に対応できるデザイン能力を身につけた次代のリーダーを育成します。

関学建築へようこそ



—— 関学建築へようこそ。いよいよ関西学院大学に建築学部が誕生する。建築というのはとても古くから存在していて、衣食住というように我々の暮らしになくてはならない存在なんだけど、二人はどんなことを学びたいと思っているのかな？



—— ぼくは将来、自分の家を設計したいと思っています。自分の部屋の家具やインテリアにもこだわっていて。お店のデザインもできたらいいかな。物理とか理数系の科目は得意じゃないから、構造とか言われると難しそう。



—— 私は物理や数学が得意だから、デザインよりもしっかりと技術を身につけたいと思っています。日本の建設技術は世界的に高いレベルだと聞いているし、将来は世界で活躍できる技術者になりたいかな。



—— そうだね。一口に建築といっても、人によってイメージするものは随分違っているね。同じ家でも、木造の一軒家とマンションでは、つくりかたから暮らし方まで違ってくる。建築物だけでなく、インテリアや家具のデザイン、建築物が集まった都市空間まで、建築を起点にすると関連領域はとても広いんだよ。



—— 海外にはまだまだ住む場所に困っている人もいけど、日本は人口が減少していて、これからは建物を建てる必要がないんじゃないかと思っています。

日常から非日常まで、
私たちが生きる世界の未来を想像し、
実際的なかたちを生み出していく。



—— たしかに、新しい建築を建てる機会は減るかもしれないね。最近だと古い建物をリノベーションしてカフェやお店にしたり、一軒家をシェアハウスにして活用するなど、これまではなかった建築の使われ方も増えているよ。



—— 倉庫をリノベーションしたお店に行ったことがあるけど、とてもカッコよかった。おじいさんの家の周りでも空き家が増えているって話を聞いたけど、それも建築が関係している話なんですね。



Masaru 教授

建築学部の教員。今回の案内役。社会の変化に向き合うことのできる建築の新しい学びについて考えている。



Kiyoko

高校3年生。活発な性格で海外への志向も高い。理科系科目が得意。



Takashi

高校3年生。デザインやファッションに興味がある。



—— 空き家も深刻な問題になっているね。こうした使われなくなった場所の魅力を高めてあげるのも、建築を学んだ人だからこそできることでもあるんだよ。最近はそうした場所の魅力を高めることが仕事としても盛り上がっているんだ。そこではデザインだけでなく、すでにある環境や資源をマネジメントするという観点がとても重視されている。



—— つくることばかり考えていたけど、どのように使っていくかという視点も大事なんですね。



—— 使う人や住む人が、つくることに参加するワークショップも盛んにおこなわれている。そうやっていろいろな人と一緒につくっていくのも建築の醍醐味の一つだね。

研究とその先に広がる世界は？
P7~10 / 建築から都市へと広がる研究領域
なぜ、いま、建築を学ぶのか？
P11 / 建築学が向き合う社会の 이슈
関学建築は何が新しいのか？
P13 / ここから始まる建築学の新しい姿



—— 自分が考えていた建築のイメージがすごく狭いってことが、なんとなくわかった気がします。



—— 逆に将来どうするかを決めるのが難しそう。インテリアデザインがいいなと思ってたけど、まちづくりというのもおもしろそうです。



—— 社会のあり方が大きく変わっている今だからこそ、新しい建築学が必要とされている。そのために生まれたのが、この関学の建築学部なんだ。次ページからより詳しく、関学建築で何が学べるのか、そしてその先にどんな未来が待っているのかを紹介していくよ。



Research Fields from Architecture to Urbanism

建築から都市へと広がる研究領域

建築・都市空間デザイン

Yasuo YAGI

「建築」を形態・機能・身体・行為とのかかわりからアプローチし、街に出て将来の建築と都市のあるべきカタチを探究します。

#建築デザイン #都市空間デザイン #設計プロセス #デザイン理論



未来の暮らしのための
新しい空間を
デザインする

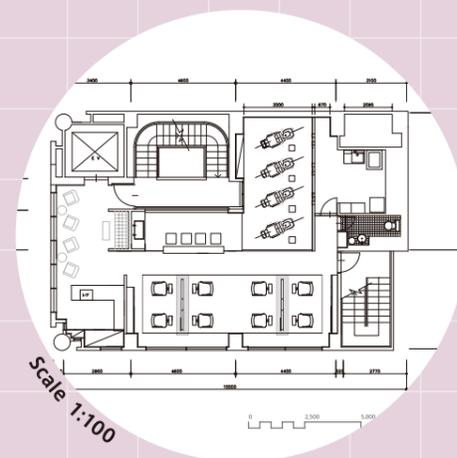
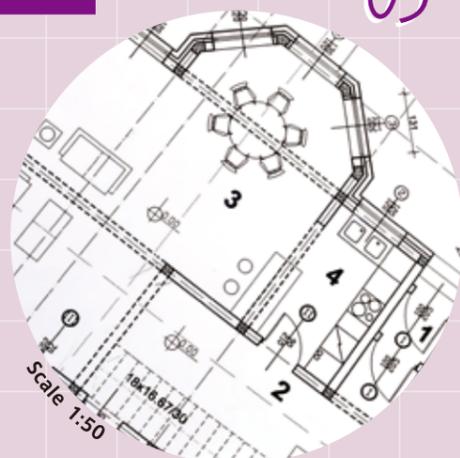
ARCHITECTURE

アートとテクノロジーを融合し、
災害に強く、快適で、美しい建築を
いかに生み出し、また継承していくのかを学ぶ

建築デザイン

建築をデザインし、素晴らしい環境を形成するための理論と実践的技術の習得をめざします。とりわけ、現代の状況を踏まえた、新しい建築空間をいかに構想するかに焦点を当てます。

#建築設計の理論と実践 #建築空間論 #現代建築論



アーバンスケープデザイン

Tetsuya HARA

思想、芸術、政治、経済、環境など社会の変化を敏感に感じ取りながら、建築デザインは発展を遂げてきました。現代の高度化するテクノロジーと変わらぬモノづくりへの情熱に後押しされ、これからは建築という行為は人々に夢の時代を提示し続けていくことなのでしょう。私たちもそこにコミットしながら、新しい建築、都市について考え実践していきます。

#建築設計 #建築の社会性 #建築と都市 #環境 #木材活用 #インテグレーション #アーバンスケープ #自然エネルギー



歴史的な建築物を保存・改修し、
地域の記憶を継承する

デジタルテクノロジーを駆使し、
安全で快適な建築を生み出す

建築計画・地域生活空間計画

Shu YAMANE

地域の歴史や伝統を生かした建築空間・生活空間の計画、再生について研究、実践を行います。また、アジアの歴史都市・伝統的住居に関する研究も行っています。

#建築計画 #地域生活空間計画 #民家再生 #都市住居 #歴史的資源を生かした地域再生 #ヴァナキュラー建築 #アジア #アーバンティシュー



建築福祉

Sang-oh RYU

バリアフリー、ユニバーサルデザインの建築計画を専門とします。少子高齢社会やグローバル化など社会的変化に合わせ多様な人にやさしい建築や生活空間に対する研究を行っています。物理的な環境だけではなく制度や生活様式の改善を合わせて考えています。

#建築計画 #バリアフリー #福祉のまちづくり #ユニバーサルデザイン #人間工学 #生活空間づくり

建築史

Masakazu ISHIGURE

我々が生きる世界の環境・都市・建物・家具など形をもったものと、それに関わる社会が、時間のなかでどのように変化したのか、あるいは変化しなかったのかを捉えて描く(時間をデザインする)のが建築史・都市史です。都市や建築、社会を設計するヒントとなるような歴史を構想します。

#都市史 #建築史 #建築論

建築生産

Yongsun KIM

建築生産は建築空間を創造するにあたり、誰がどのようにするかを考える分野です。企画、設計、施工、運用といった建物のライフサイクルの中で、各段階のマネジメントやプロジェクトの生産性向上・効率化を探りながら、今後の建築生産のあり方について研究していきます。

#建築生産 #建築構法 #ライフサイクル #マネジメント

建築構造・地震工学

Sadatomo ONIMARU

日本では避けて通れない地震に対して建物とはどうあるべきかを中心に考えています。どのような大地震が想定され、地盤をどう伝わり、基礎、そして建物にどう作用するかを理解し、建物の安全性を高める方策を研究しています。

#建築構造 #構造力学 #建築材料 #地盤工学 #耐震・制震・免震 #建築基礎構造 #地震工学 #レジリエント建築安心・安全な都市・建築

建築構造

Mika ARAKI

構造デザインとは、建物に作用する外力に対して安全性を確保し、建築の造形に寄与する分野です。そのために構造原理の知識、ものの壊れ方や力の流れをイメージする力を身につけます。

#構造デザイン #構造力学 #建築構造材料 #空間構造 #構造実験

建築環境設備

Tadasu IIDA

より快適、安全で健康的、さらには地球環境への負荷の少ない建築・都市空間の実現を目指し、人間工学の視点から、人の行動や反応と環境との関係について調査研究を行っています。

#環境の心理的評価 #ストック活用 #省エネルギーデザイン #建築の長寿命化



持続可能な地球環境に向けた都市開発を实践する

都市再生・都市デザイン

Yukihiro KADONO

人口が減少しても元気な都市、思わず歩いてみたくなる都市のデザインを学びます。どんな仕事も多かれ少なかれ必ず都市とかかわりがあります。
#都市デザイン #都市再生 #郊外住宅地 #団地再生 #エリアマネジメント
#歩きたくなるまちづくり #都市景観 #盛り場デザイン

住環境・まちづくり

Yoko SHIMIZU

私たちの生活、活動の場である「まち」について考えます。土地の利用用途や制度などこれからの都市の在り方に関する仕組みの構築と、そこでの人のつながり、コミュニティの形成、持続可能性に取り組んでいます。
#住環境 #まちづくり #土地利用 #ゾーニング #途の混在賑わい
#持続可能性 #住み続けられる #コミュニティ #主体的

海外都市開発

SDGsの理念を大切にしながら、海外とくにアジア地域の都市開発やまちづくりを学びます。
#アジア都市計画・デザイン #都市・交通政策 #海外都市開発協力



空間と情報を融合し、未来の都市を計画する

豊富な国家資格の取得
建築学部では、一級・二級・木造建築士、1級、2級施工管理技師（建設施工管理・建設機械施工・土木施工管理・電気工事施工・管工事施工管理・電気通信工事施工管理・造園施工管理）の受験資格を取得可能です。カリキュラムを履修することで、資格取得プログラムを体系的に修得することができます。

卒業後の進路
豊富な専門科目と幅広い教養科目によって、設計事務所、建設会社、住宅メーカー、デベロッパー、都市計画コンサルタント、鉄道会社、公益企業、NGO・NPO、公的機関など、学びの中から発見した興味や関心に合わせた進路が広がっています。

英語/国際担当

Maki TANIGUCHI

houseではなくhomeを築くために他者とコミュニケーションを図る力を磨く建築の専門英語科目を担当します。国際問題について英語で情報を収集し、英語で考え、英語で課題解決を提案する中で、英語力と国際教養の両方を向上させることを目指します。
#英語・国際教養

多くの人が暮らす基盤となる都市空間を計画し、デザインします。未来に向けて価値のある都市インフラを作り、安全で安心な街や、ボトムアップで誰もが気持ちよく暮らせる環境を目指します。



世界をフィールドに様々な社会の課題と向き合う



都市レジリエンス

Kiyomine TERUMOTO

都市・地域に求められる防災対策のあり方について考えます。都市・地域の減災機能の分析、災害発生後の復旧・復興過程と効果的な支援方策の検討、実践的な活動などに取り組めます。
#減災システム #防災計画 #災害復興 #都市・地域計画
#防災まちづく #リスクマネジメント

コミュニティベースの豊かな街づくりを支援する



コミュニティデザイン

Ryo YAMAZAKI

自分の仕事は作品づくりや商品づくりではありません。でも、住民と一緒にまちの将来計画をつくったり、公共施設の設計を考えたり、まちづくりの活動を生み出したりするコミュニティデザインという手法は間違ったものではないという自負はあります。
#コミュニティデザイン

URBANISM

建築学が向き合う社会の 이슈

持続可能な社会をベースとした、ストック&リユースの建築・都市デザイン

20世紀の日本は「スクラップ&ビルド(壊して建てる)」を繰り返し発展してきました。今では数え切れないほどの建築物が建てられており、**今後はこれらを社会の資源(ストック)として有効に活用することが、持続可能な社会の実現には欠かせません。**けれど、いまだに国内では毎年60万件に近い住戸が新しく建てられています。国内の住宅総数に占める空き家の割合は13.6%、地方を中心に人口減少などで空き家は846万戸と試算されているにもかかわらず(※1)。この矛盾を私たちはどう考えればいいのでしょうか。

近年では、こうした利用されていない空間を活用し、地域の活性化、コミュニティの場をつくる試みが全国で増えています。住宅を地域のコミュニティスペースとして開く、倉庫を展示空間として利用する、空き店舗を地域の図書館にするなど。同じように世界各地では、**使われなくなった鉄道や工場などが美術館や公園へと再生され、賑わいと新しい価値を生み出しています。このように、もともとの空間が持つポテンシャルをうまく引き出し、デザインするという建築家の役割は重要です。**

しかし、周囲を見渡してみれば、今も私たちの社会は「スクラップ&ビルド」を続けています。まだまだ使える建物の多くがゴミとして捨てられ、建設産業全体で毎年7万トンもの廃棄物を発生させています(※2)。

私たちはこれまで以上に、なぜ建てるのかを慎重に吟味しつつ、より長く使っていくためのデザインを考え、実現していく必要があります。建築に課せられた社会的使命はとても大きく、だからこそやりがいもあります。「スクラップ&ビルド」から「ストック&リユース(資源の再利用)」をベースとした社会へ。その実現はこれから建築を学ぶみなさんに託されています。

※1 総務省「住宅・土地統計調査(2018年)」
※2 環境省「産業廃棄物排出・処理状況調査報告書(2015年)」

関連カリキュラム

- 建築設計演習I-V(2年生春学期-4年生春学期) 社会課題の解決に向けた具体的な空間提案を行います。
- 現代建築デザイン論(1年生秋学期) 建築空間のデザイン手法について学びます。
- アーバンスケープデザイン論(3年生春学期) 都市形成手法について学びます。

関学建築が向き合う社会的な課題(이슈) を紹介します。これからの社会に対して建築学ができること、また期待されていることはたくさんあります。身近な暮らしから世界規模の環境問題まで、幅広いスケールで展開する社会の課題に教員と学生が一丸となって取り組み、建築から社会を変えていきます。

テクノロジーの進化を、これからの都市と建築デザインに接続

インターネット やスマートフォンが私たちの日常を変えたように、日々進化するテクノロジーは、建築の世界にも大きな影響を与えています。設計の現場ではこれまでの手描きの製図に変わり、コンピューターを使った設計が普及し、さらに三次元のコンピューターグラフィックスを用いたり、プログラミングによってデザインを生成する手法が普及するなど、建築物や都市空間にあたりし表現をもたらしました。さらに将来、AIが本格的に導入されると、建築家の役割も大きくシフトしていくと考えられています。

設計においてだけでなく、3Dプリンターなどによって、デジタルデータからモノへの出力が容易にできるようになり、ものづくりのあり方も岐路を迎えています。これまでのように工場などの大きな設備がなくても、誰もがものづくりに参加することができる時代。建築の世界では、3Dプリンターだけで住宅や橋がつくれ、コンピューター制御されたドローンが建築を組み立て、ロボットが人間にはできない緻密な表現を実現し、バイオテクノロジーを用いた酸素を生み出す外壁が開発されるなど、世界中でさまざまな実験が試みられています。

さらに、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)など建築・空間体験の技術

も進化し、デジタル空間と現実空間がオーバーラップしつつあります。そのとき世界はどのように変わるのでしょうか。すでに位置情報を活用したゲームは、デジタルとアナログをつなぎ、人の行動を変えつつあります。近い将来実現するであろう自動運転も、これまでの道路の意味を劇的に変え、交通の便が悪く、過疎化が進む地域の位置づけまでも変えてしまうかもしれません。

これまで積み上げられてきた建築学の知識や知見をベースに、あたらしいテクノロジーの可能性や長所を組み合わせることは、これからの社会に必要な価値や仕組みを生み出していくことにつながります。

関連カリキュラム

- デジタル表現演習 CADや3DCGを用いたデザイン表現の方法を学びます。
- BIM演習 今後建設現場で利用されるであろうBIMという技術の使い方を学びます。
- 建築プログラミング演習(3年生春学期) プログラミングによって生成されるデザインの方法を学びます。
- 建築デザイン演習(3年生秋学期) テクノロジー進化に伴う建築設計スキルを学びます。

世界スケールで人の暮らしと幸せに貢献できる人材の育成

建築家 はデザイナーとして、美しい建物を建てるという役割がありますが、実際にはそれだけでなく、多くの建築家・都市計画家が世界のさまざまな課題に向き合っています。途上国では、道路や住宅、学校などがまだまだ足りない地域も多く、現実には10億人近くの人々が衛生面などに問題のあるスラム街に住んでいるとされています。**こうした地域では、それぞれの風土や経済状況に合わせた建築デザインと建設方法を開発することが、そこで暮らす人々の命と生活を守ることに大きく貢献します。**

これまで日本の建築業界が培ってきた技術やノウハウは、都市化がすすむアジアやアフリカ地域から注目されています。国内企業の多くも、海外での事業展開を視野に入れた戦略を立てており、活動範囲はグローバルに広がっています。また、現在はあらゆる物と人、そして情報が国境を越え、ネットワークによってつながる時代。国内でも戦後に植林された樹木が伐採時期を迎えているにもかかわらず、安価な外国産木材によって伐採が進まず、山の環境悪化が問題視されています。建設現場の職人不足を補うために多くの外国人労働者が建設現場で働いているなど、グローバリズムの影響は無視できません。**関学建築**

では、国際NGOやNPO、企業や自治体と連携しつつ、こうした世界スケールで人々や社会に貢献できる人材育成に力を入れます。

さらに、日本の建築デザインは世界から高い注目を集めており、たくさんの建築家が日本から世界に進出し活躍しています。卒業後は、海外の設計事務所やデザイン事務所でのキャリアを積み、世界と対等に渡り合いながら活躍する道も開けています。

関連カリキュラム

- 都市生態学(2年生春学期) 各都市がどのように人や自然と一体的に成り立っているかを学びます。
- アジア建築史(2年生春学期) アジアの国々における建築や都市形成の独自性や歴史を理解します。
- 海外開発協力論(3年生春学期) 途上国における都市開発分野の国際協力事例などについて学びます。
- 海外短期研修プログラム 夏季休暇などを利用し海外ワークショップや短期留学の機会を提供します。

少子高齢化、人口減少時代のみんなで進めるまちづくり

戦後 から高度成長期、日本の人口はおおきく増加し、都市部には地方から人の波が押し寄せました。それに応えるための快適な住む場所や働く場所を、いかに効率よく用意するかが建築にたずさわる人々に課せられた使命でした。結果、車を前提とした広い道路、山を切り開いて造成した住宅地、高層ビルが立ち並び商業エリアといった、現在の日本の風景がつくられました。

しかし、日本の総人口は2008年にピークを迎え、その後減少に転じています。人類史的に見ても、このように長期にわたって人口が減るという事態は極めてめずらしく、また3人に1人が高齢者という世界的に類を見ない高齢化社会が到来しつつあります。当然ながらこれまでと同じように、大量の建築物をつくり続けることはできません。**量や効率性を第一にするのではなく、そこで暮らす人々のニーズや地域の实情に合わせ、何が必要で必要でないかをじっくりと吟味することの重要性が認識されています。**そのために、どのようなまちに暮らしたいか、住人みずからが主体的に議論していくことが必要です。家族という単位をこえて、地域レベルでコミュニティを育み、子育てや介護などをシェアしていくための新しい環境をどう整備するかが議論されています。

さらに過疎化がすすむ地域では、路線バスの縮小や集落内の商店が閉店することで、車を持たない高齢者の生活基盤が失われるなどの問題が生じています。長期的にはまちの規模を縮小しながら、自動運転やドローンといった技術による生活支援の導入が検討されています。東京への一極集中が止まらない中、**各地の市街地でも、空き家の増加や中心市街地の衰退などの課題を抱えており、地域独自の魅力を高め、これまでにない柔軟な発想からのまちづくりが必要です。**これまでのような国や行政が一方的に解決策を示すトップダウン方式を変え、それぞれの状況に合わせた解決方法を、みんなで導き出すことを手助けできるまちづくりリーダーが求められています。

関連カリキュラム

- まちづくり演習 実際に特定のエリアでのまちづくりに取り組みます。
- 都市防災論 防災の観点から都市計画やまちづくりを考えます。
- 福祉環境計画 高齢者や子どもなど誰もが暮らしやすい環境について学びます。
- コミュニティデザイン 地域のコミュニティを形成する方法を学びます。

New Standard of Architectural Education

ここから始まる建築学の新しい姿

学びの特徴

建築の始まりから終わりまで

持続可能な社会にむけて、建築についての時間を理解することが大切になります。この街にはどんな建築があればよいのか、建てた後に使い続けていくためにはどうするか。関学建築では建築のライフサイクルを意識した教育と研究を実施していきます。

マネジメントという視点

巨大化、複雑化する建築プロジェクトにおいては、関係者間のスムーズな意思疎通を図り、スケジュールを管理する、マネジメントという視点を持つことが必要です。関学建築では「工学」と「芸術」をプラットフォームに、人・もの・場所の関係を読み取り、建築と社会の回路をひらく「マネジメント」についても学びます。

建築のタイムライン

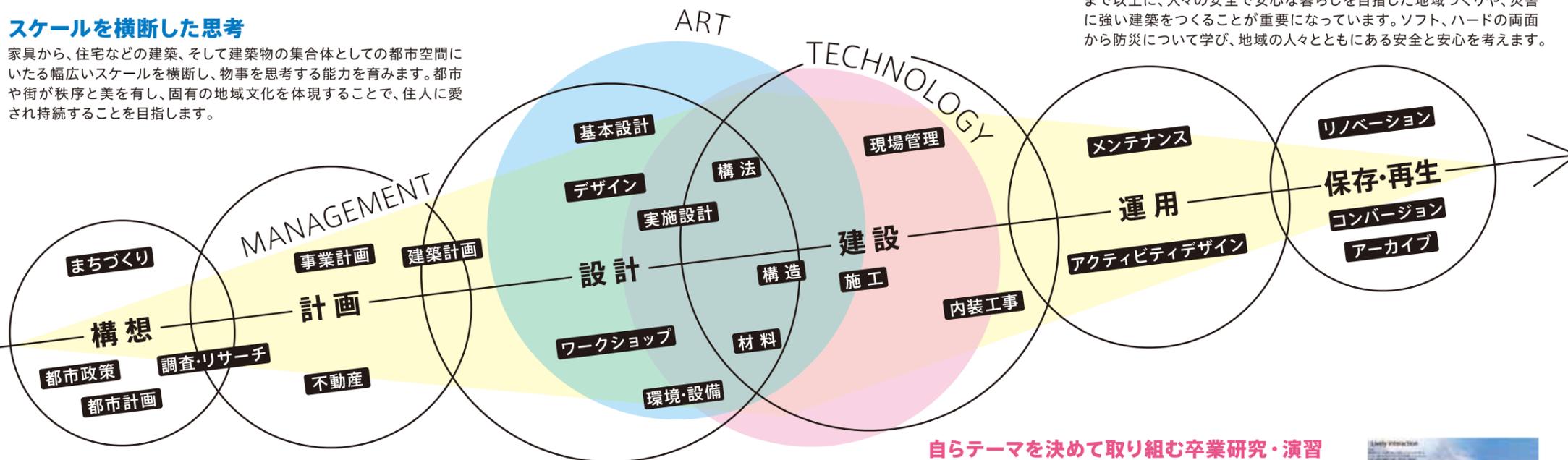
アートとテクノロジーを横断する思考が求められるのが建築です。関学建築ではこの2領域に加え、マネジメントという独自の視点を加え、設計や建設だけでなく、時間軸の中でさまざまな建築の可能性を追求します。

問いを生み出す力

シミュレーションや人工知能の発達した世界では、適切な答えを導き出すことよりも、新しい問いを主体的に生み出すことがクリエイティブな価値を持ちます。地域や社会の実情にもとづき、本当に問うべき課題を見出すための力を養います。

スケールを横断した思考

家具から、住宅などの建築、そして建築物の集合体としての都市空間にいたる幅広いスケールを横断し、物事を思考する能力を育みます。都市や街が秩序と美を有し、固有の地域文化を体現することで、住人に愛され持続することを目指します。



都市の仕組みと連携を理解する 都市マネジメント論

都市に関する多岐にわたる課題、行政や民間による具体的な仕組みと事例、その解決手法に関する知識を修得し、各プレイヤーとしての行政、民間企業、市民の役割分担と連携のあり方を理解します。

入学してすぐに始まるデザイン・製図演習

1年生の演習科目では、空間スケッチ、建築製図の方法、建築プレゼンテーション技法などの基礎的なスキルを学びます。2年生からの演習科目では、単体の建築デザインから都市デザインのスケールまで連続的・一体的に計画提案できるように、様々な規模や用途の建築物の設計スキルを、具体的な設計課題を通して身につけます。



建築と都市をつなぐ 建築・都市デザイン演習

建築空間と都市空間を連続的・一体的に捉えるため、建築設計分野におけるCAD、CG、測量技術、BIM、環境工学や構造分野における解析プログラムの作成、都市解析分野におけるGISのほか、フィールド調査やまちづくりに関するスキルを演習・実習形式で学びます。各専門分野の教員のもとで具体的な課題に取り組むことで、知識やスキルの応用力を身につけます。



根拠を持ったデザイン

優れたデザインはデザイナーの感性やひらめきだけでなく、調査や分析といった手順を踏むことによって実現されます。設計やデザインを導き出すための調査・分析に関する知識と手法を身につけ、デザインの根拠を社会に示すことのできるデザイナーを育てます。

グローバルな学びの環境

留学だけでなく海外をフィールドとした研究や教育を推奨し、グローバルな学びの環境を用意します。海外の大学との共同プロジェクトや、国際的な設計コンペティションへの参加など、授業や研究室の活動を通して、世界を感じることができます。

実践的なフィールド

社会の具体的な課題に対してPBL型授業を充実させ、改善や解決の手法を学ぶことができます。実社会においてさまざまな人と触れ合う中で、卒業後の活動をリアルにイメージすることができます。

最先端テクノロジーの可能性

情報テクノロジーが都市や建築のあり方、つくり方を変えています。関学建築では、最先端の技術を駆使した設計施工、既存建築の再生や都市環境の管理運営について学べます。

未来に向けた安全と安心

近年、国内外で大規模な災害が多発しています。建築学においてもこれまで以上に、人々の安全で安心な暮らしを目指した地域づくりや、災害に強い建築をつくるのが重要になっています。ソフト、ハードの両面から防災について学び、地域の人々とともにある安全と安心を考えます。

自らテーマを決めて取り組む卒業研究・演習

4年間の学びの集大成として学生個人が設定したテーマにもとづき研究をおこないます。調査分析能力に加え、企画・提案能力、表現力を総合的に身につけ、高めることを目指します。指導教員や学内外の関係者とのディスカッションなどを通じて、卒業後のキャリアにも役立つ能力を身につけることができます。



世界中の学生と競う設計コンペ

研究室や個人単位で建築や都市計画のコンペ(設計競技)に参加できます。国内の企業が主催する学生向けのコンペから、プロ・アマを問わない国際コンペまで幅広く実施されており、機会を捉えて参加してみたいかがでしょうか。世界中の建築家や学生がライバルです。



自分たちで建てるセルフビルド演習

構造や構法で学んだ知識と技術を応用しながら、自分たちで仮設的な空間を実際につくります。材料の特性や空間感覚を身体的に理解しながら、リアルに建築を感じることができます。



多彩で 実践的な カリキュラム

■入試情報

代表的な入学試験は、3教科入試「英語・数学・理科(物理・化学・生物のうち1)」と大学共通テストの利用入試等を実施します。そのほか、新たに「9月出願(専願制)」と「11月出願(併願)」の総合選抜入学試験を導入する予定です。詳細は今後発行の「入試ガイド」やHPを参照してください。



<https://www.kwansei.ac.jp/admissions/index.html>

■アクセス

神戸三田キャンパス
兵庫県三田市学園2丁目1番地
校舎は西宮上ヶ原キャンパスと同様にスパニッシュ・ミッション・スタイルを採用。文理融合が実現され、時代の先端を行く学術拠点にふさわしい最新の施設と自然が調和しています。



<https://whatfor.kwansei.ac.jp/kobe-sanda>

